

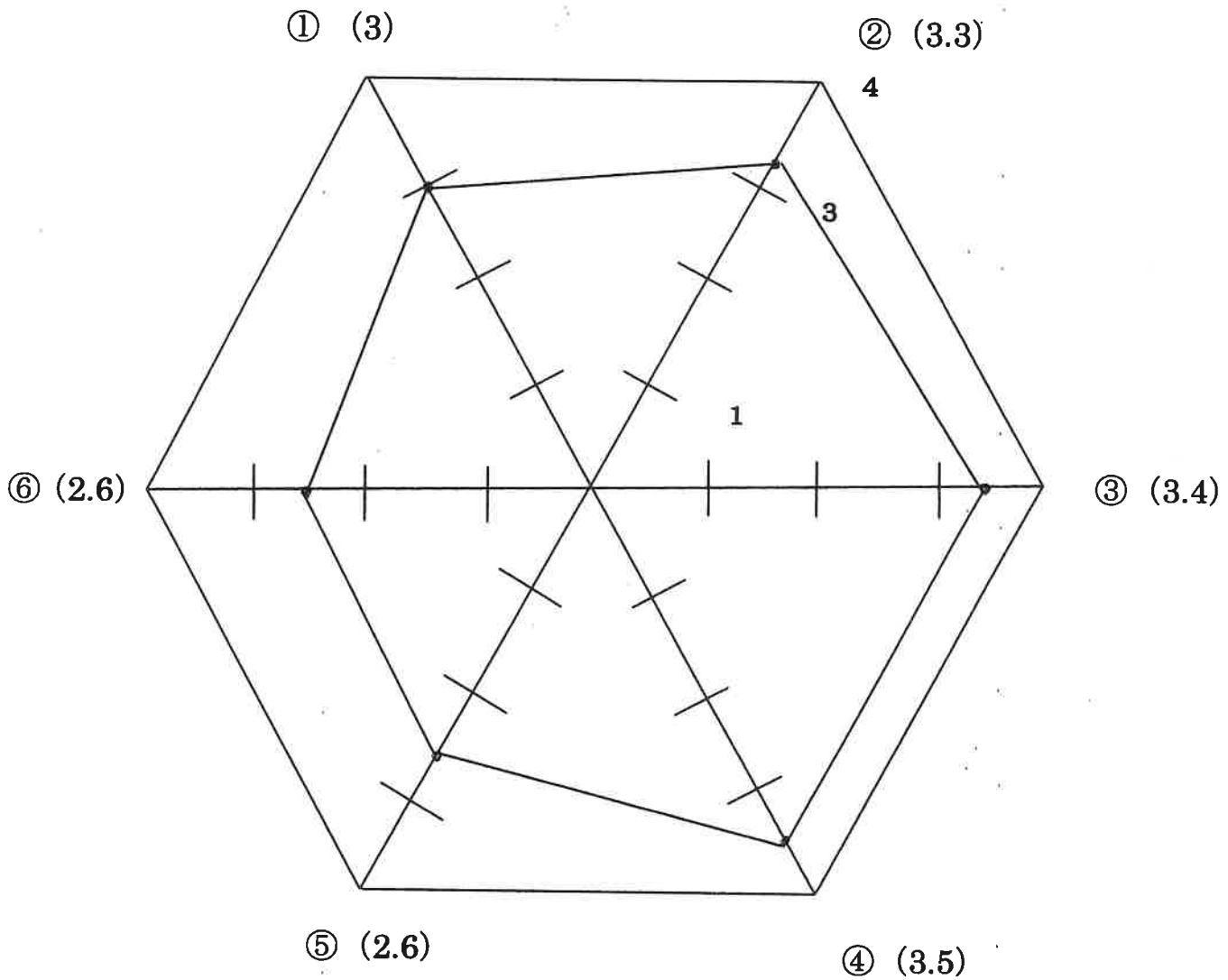
令和元年度 <教職員向け自己評価表のまとめ>

令和2年 3月 31日

認定こども園 長岡天使・聖母幼稚園

(評価例) 4…よくできている 3…まあまあできている 2…あまりできていない 1…全くできていない

評価項目	内容	評価	課題と今後の解決法		
① 保育の計画性	園の理念・教育目標・教育課程	<ul style="list-style-type: none"> ●園の理念の精神や理念、教育目標を理解している ●教育目標を読み、園理念の理解とあわせて園長や保育者と話し合う ●指導計画は、教育目標・教育課程そして幼児の興趣に即して作成し、周囲の状況や状況に対応できるものとしている 	3	<ul style="list-style-type: none"> ●教育目標(園の理念も含め)・モンテッソーリ教育等、一人一人の成長の段階を考え た上での援助、指導が出来る様になりたい。しかし、認定こども園になり園全体での話し合いが難しい。そのためには話し合いの設け方を工夫し改善していく必要がある。 ●教育目標の1つに“神様と友達を愛することも”がかかっているが、いつも神様に見守られていることを意識に子どもに接することが大切。 ●モンテッソーリ教育の環境作りに関して、教師の意識がもう少し必要です。子どもの興味・関心が何処にあるのかを考え、毎日の環境作りをすることが大切である。 ●時間がないなかで、子どもの状態を把握し環境作りをすることは大変だが、優先順位付けながら、少しずつ対応していく様にならなければならない。環境作りも含め普段の保育一つ一つを丁寧にゆとりを持って行うことが大切である。 ●自己反省をすることが気づきになる。その点を他の職員と共有することが大切である。しかし、一人一人が反省を生かして行くようにすることが大切である。 	
	環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ●指導計画に基づいた安全で安心感、潤い感のある環境を構成する ●幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や道具に配慮し、必要な数量を用意する ●幼児の発達を見直し、より豊かな環境が展開できるような環境を再構成する ●園内外の自然への理解や、季節の変化に応じた環境の構成をする 	3		
	評価・反省	<ul style="list-style-type: none"> ●自己の保育についての評価・反省をさまざまな観点から行う ●自分の保育を評価・反省することで、園全体の保育に活かしている 	3		
	② 保育のあり方 幼児の対応	健康・安全	<ul style="list-style-type: none"> ●日頃から園内の危険箇所に対応する ●毎日の園児の健康検診を大切にす ●事故や怪我が発生した場合は迅速に適切な処置を行う 		3
		幼児理解	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児一人ひとりをよく観察し、幼児の意を受け止める ●幼児同士のかかわりの姿から、個々の成長発達をみえ、見直しをもって理解する 		3
指導		<ul style="list-style-type: none"> ●幼児の思いや考えに共感し、受け入れる ●規範意識・道徳性を培ううえで、モデルとなるよう心がける ●幼児の年齢・発達に応じた指導や援助をする 	3		
姿勢・能力・儀容・組織		<ul style="list-style-type: none"> ●ふさわしい清潔感のある服装、髪型、身だしなみを心がける ●職務上の情報等の秘密を守秘する ●社会人の常識をわきまえ、行動する ●教職員組織の協働性を大切に、チームとしての自覚をもつ ●園内外の意見交換を行い、組織内の問題の共有化に努める ●監督や役員職務など、任せられた仕事は確実に行う ●保育者としての感性・教養を磨く 	3		
③ 保育者の資質・能力	対話交流	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者からの相談や要望をよく聞くように心がける ●保護者との対応には公正さを信条とし、保育時間外でも寄りと自覚をもった言動・行動を心がける ●電話での対応は、わかりやすく真摯な対応に努める ●保護者からの話で、自分で判断出来ない場合は、園長主任等に報告、連絡、相談をする ●クレームの内容によっては教職員組織全体で共有化し、共通理解のうえで対応する 	3	<ul style="list-style-type: none"> ●朝の視診は毎日丁寧に行ない、遊具等の危険箇所のチェックをするともに、ヒヤリハットの話し合いの場を設ける。 ●事故など(発病も含む)の時のマニュアルを周知する。 ●子どもひとりひとりに対しての先を見通しての心情・成長発達に関する理解にかける。気になる子だけに目がいきがちですが、全体に目を向ける。 ●一人ひとりの目標を意識し、毎日の援助につなげる事に欠けている。そのため、個々の成長発達に合った指導の必要性が求められる。 ●日々の保育の中で、話す立場から時には聞く立場で子どもと接つすることで、その子の思いや考えを理解し、大人・さらには教師としての言葉・指導が求められる。 ●知識・教養など職員個々に違い、それによつての言動・身だしなみも違っている。その違いを認め、資質・能力を自己開拓しながら、カトリック幼稚園としての建学の精神を学ぶ研修会に参加しながら、学校法人として指導が必要である。 ●個々の保育意識を高めるための自己研修または、研修会に参加した方との情報共有の場を設ける等配慮する。 ●子ども・保護者の模範となるように常に意識することが大切である。 ●保護者への対応にあたり、園としての方針はしっかり持った上で会話していく。それには、会議、打合せ、朝・夕の会の時を利用し、どんな細かい事でも全職員が周知できる様に常に心がけておく必要がある。また1人だけで解決せず、上司・先輩への相談が大切。 ●保護者との対応を正確に行うには、子どもの常の状態を注意深く観察することが大事。保護者対応においては、その場限りせず、その後の様子を丁寧に見ていく事、また伝えていく事が大切である。 ●散歩等であった人との挨拶は交すことが出来たが、地域との交流は難しい。まず地域を知ることから勉強しなければならない。 ●年長児と小学校との交流を、年中児・年少児と共に、クラスで共有しながら、長期の展望を抱けるように心がけていく。 ●全職員が幼保小の連携について、学ぶ機会や、実践の様子を共有する機会を設ける。 ●担当を中心に、園全体の取り組みとしてとらえられるように情報共有をしていく。 ●研修で得たものをもっと自分のものとして生かし、さらには他の人に報告し園全体として共有できるようになることが大切。 ●自己課題を持ち、保育・研修に臨む事は大変であるが重要である。 ●研修・研究をすることは、自分の現状を知ることができ、向上心につながる一つの判断材料になる。 ●多くの研修会に参加することで専門知識・教養をさらに身に着けることができる。また、学んだ知識を他の職員と共有することが必要である。その研修を、保育に生かしていく事が大切である。 ●保護者対応や地域社会に関する研修が少ない。 ●子どもを取り巻く社会情勢の希薄がある。家庭保育ではなく、教育現場である事を自覚するために研修などを通してもっと勉強する事が必要である。 ●預かり保育などの研修や他の園を見学できるような機会を設けていく。 ●アレルギー、成長の遅れなどの子どもの保護者と常に情報交換を進めていく事が必要である。 ●事故やケガにつながる様にならない様に、安全保育を心がける事が重要である。 	
	クレーム対応	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者からの話で、自分で判断出来ない場合は、園長主任等に報告、連絡、相談をする ●クレームの内容によっては教職員組織全体で共有化し、共通理解のうえで対応する 	3		
	地域・自然	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の自然や施設、行事等について理解し、利用する ●地域の人々とあいさつや会話を交わし、親睦に心がける 	3		
	小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校の教育内容について理解するよう努める ●地域の小学校行事や公開授業等に園心をもつ 	2		
	子育て支援 地域への開放	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て支援や地域開放について、内容を理解する ●子育て支援や地域開放について、教職員全体で取り組む 	3		
④ 保護者への対応	研修・研究への意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ●研修会や研究会には自己課題をもつて積極的に参加する ●自分の保育について自己課題をもつて研究を行う ●自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する 	3		
	保育者としての専門性に関する研修・研究	●幼児の発達に必要な知識を学び、現場に生かす研修・研究を行う	3		
		●記録の取り方、考案の仕方に関する研修・研究を行う	2		
		●保育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	2		
		●実践に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行う	2		
		●幼児の発達を見直した環境構成や教材に関する研修・研究を行う	3		
		●保護者への対応に関する研修・研究を行う	3		
	●地域社会との交流に関する研修・研究を行う	2			
	●組織内の協力・連携に関する研修・研究を行う	3			
	今日的課題に関する研修・研究	●アレルギー、成長の遅れ、問題のある幼児について理解する	3		
●預かり保育や子育て支援について研修する		3			
●幼小連携の必要性や具体的方策について研修する		2			
●子どもたちの安全・安全に関する、危機管理の必要性と対応について研修する		3			
●社会情勢について関心をもち、研修する	2				



※平均点を出して、六角形を作って下さい。

総合所見と来年度の課題と目標

- ・教職員同士話し合う場を工夫して、朝礼、終礼、会議等を有意義に利用する。
細かな事でも共有し、子どもへの関わり、援助をより良い指導へとつなげたい。
- ・研修会を通し、新しい知識の修得と自己研鑽をする。
- ・地域の人との交流が少ない。各年齢別で発達に応じて、出来る範囲で保育計画に反映していく。